【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和2年5月21日(2020.5.21)

【公表番号】特表2019-513526(P2019-513526A)
【公表日】令和1年5月30日(2019.5.30)
【年通号数】公開・登録公報2019-020
【出願番号】特願2019-505307(P2019-505307)
【国際特許分類】
Ａ４７Ｃ　7/62　(2006.01)
Ａ６３Ｂ　23/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４７Ｃ　7/62　Ｚ
Ａ６３Ｂ　23/00　Ｆ
Ａ６３Ｂ　23/00　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】令和2年4月13日(2020.4.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
接地係合支持体と、着座する対象者の臀部と接するための、前記接地係合支持体上で支持されたシートと、前記接地係合支持体から概ね上向きの方向に延びる前記シートの後方に配置された後方支持部材と、椅子のそれぞれの対向側部上に、かつ、前記シートの概ね後部に向かって配置された一対の足部支持手段と、を備え、調節可能な連結手段が、前記足部支持手段を前記椅子に調節可能に連結する後方支持部材にスライド可能に連結され、これにより、前記足部支持手段の高さが前記シートの高さに対して調節可能であり、前記足部支持手段それぞれが、四頭筋および股関節屈筋のストレッチのために、対象者の対応する大腿部が膝に向かって前記シートから概ね下方に延び、前記対象者の対応する下腿が前記膝から前記足部支持手段に向かって上方に傾斜する状態で、前記椅子に着座する対象者の対応する足部または足首領域を支持するように構成された、椅子。
【請求項２】
前記調節可能な連結手段は、前記シートの高さに対して前記足部支持手段の高さを調節するために、概ね上下の方向にスライド可能である、請求項１に記載の椅子。
【請求項３】
第１の解除可能な固定手段は、前記足部支持手段が前記シートの高さに対して所望の高さにある状態で、前記調節可能な連結手段を前記椅子に解除可能に固定するように構成される、請求項１または２に記載の椅子。
【請求項４】
前記足部支持手段の高さは、前記シートの高さに対して、前記シートの高さよりも低い最下限高さと、前記シートの高さよりも高い最上限高さとの間で調節可能である、請求項１から３のいずれか一項に記載の椅子。
【請求項５】
前記シートの高さよりも低い前記足部支持手段の前記最下限高さは約４００ｍｍ、約３５０ｍｍ、及び、約３００ｍｍの１つであり、前記シートの高さよりも高い前記足部支持手段の最高限高さは約１００ｍｍ、約１２５ｍｍ、及び、約１５０ｍｍの１つである、請

求項４に記載の椅子。
【請求項６】
前記足部支持手段は、横方向旋回軸線を中心として前記椅子に旋回式で連結され、前記シートに対して概ね前後方向に前記横方向旋回軸線を中心として旋回する、請求項１から５のいずれか一項に記載の椅子。
【請求項７】
第２の解除可能な固定手段が、横方向旋回軸線を中心とした所望の角度位置に前記足部支持手段を解除可能に固定するために設けられる、請求項６に記載の椅子。
【請求項８】
各足部支持手段は、前記椅子の対応する側部から横方向に延びる足部支持部材を備える、請求項１から７のいずれか一項に記載の椅子。
【請求項９】
前記足部支持手段は、担持要素上で担持され、かつ、前記担持要素のそれぞれの対向側部上の前記担持要素から延在する、請求項１から８のいずれか一項に記載の椅子。
【請求項１０】
前記シートは、中央シート要素と、前記中央シート要素に結合されかつ前記中央シート要素から外向きに延びる一対の大腿部支持要素と、を備える、請求項１から９のいずれか一項に記載の椅子。
【請求項１１】
前記大腿部支持要素は、前記大腿部支持要素と前記中央シート要素が実質的に共通の平面を画定する第１の状態において前記中央シート要素と整列可能であり、各大腿部支持要素は、対応する前記四頭筋および股関節屈筋のストレッチの間に、前記シートに着座する対象者の前記対応する大腿部に適応するために、対応する実質的に水平な第１の旋回軸線を中心として、下向きの円弧を描いて前記第１の状態から前記中央シート要素に対して旋回する、請求項１０に記載の椅子。
【請求項１２】
概ね上向きの方向と概ね下向きの方向の一方または両方に、対応する前記第１の旋回軸線を中心として各大腿部支持要素を付勢するための第１の付勢手段が設けられ、かつ、対応する前記第１の旋回軸線を中心として各大腿部支持要素を所望の角度位置に保持するための第１の保持手段が設けられる、請求項１１に記載の椅子。
【請求項１３】
それぞれの前記大腿部支持要素は、休止位置から、それぞれの円弧を描いて、前記中央シート要素に対して概ね後ろ向きの方向に、前記中央シート要素に対して、それぞれの実質的に垂直に延びる第２の旋回軸線を中心として旋回する、請求項１０から１２のいずれか一項に記載の椅子。
【請求項１４】
対応する前記第２の旋回軸線を中心として各大腿部支持要素を所望の角度位置に保持するための第２の保持手段が設けられる、請求項１３に記載の椅子。
【請求項１５】
それぞれの前記第２の旋回軸線を中心として前記大腿部支持要素を付勢するための第２の付勢手段が設けられる、請求項１３または１４に記載の椅子。
【請求項１６】
各大腿部支持要素上で支持される対応する大腿部の内側部分と接するための内側大腿部接触手段が、前記大腿部接触要素上に設けられ、各内側大腿部接触手段は、対応する前記大腿部支持要素によって画定される平面内に存在する非活動状態と、対応する前記大腿部支持要素上で支持される大腿部の内側部分と接するように対応する前記大腿部支持要素から実質的に上方に延びる活動状態と、の間で移動可能である、請求項１０から１５のいずれか一項に記載の椅子。